

菜園雑学 NO5の2 平成16年12月1日
野菜栽培の基礎 堆肥について 神奈川県農業共済組合

(自家菜園として野菜を作る時の参考にしていただければ幸いです。)

良い野菜を作るためには良い土壌を作ることが大切です。良い土壌を作る基本は堆肥の施用です。堆肥にはいろいろな種類がありますので堆肥の性質を十分考えて効果的に使用して下さい。

1 堆肥の施用量

表1 露地野菜の有機物の施用量(10a当たり)

おが屑混合 蓄糞堆肥	蓄糞堆肥化物		乾燥蓄糞		稲わら堆肥	剪定屑 堆肥
	牛糞	豚・鶏	牛糞	豚・鶏		
1t/作	1t/作	0.5~1t/作	0.5~1t/作	0.3~0.5t/作	1t/作	1t/作

神奈川県作物別施肥基準

2 堆肥の有効成分

表2 堆肥の養分含量と有効成分

種類	有機物名	水分(%)	C/N比	有効成分量(kg/現物t)				
				窒素	リン酸	加里	石灰	苦土
家畜糞堆肥	牛ふん	50	17	2.2	8.7	13.1	21.0	6.5
	豚ふん	29	10	13.5	35.3	19.2	45.4	17.8
	鶏ふん	20	8	16.9	41.0	28.2	126.8	17.7
おが屑混合堆肥	牛ふん	58	21	0.8	4.9	9.9	11.4	4.6
	豚ふん	44	14	4.2	18.2	13.1	28.7	8.4
	鶏ふん	37	11	7.0	23.0	17.6	39.6	17.0
その他堆肥	稲わら	75	19	1.2	1.0	4.0	0.7	0.6
	剪定屑	64	33	0.0	0.6	1.7	10.4	1.9
	バーク	61	36	0.0	1.7	2.5	21.0	9.0

神奈川県作物別施肥基準

堆肥の10a当たりの使用量や有効成分は種類によって違います。したがって、全体の施肥量を決める時は堆肥の有効成分も含めて下さい。特に養分含量の高い豚糞、鶏糞を使用する時は使用量に注意して下さい。

どんな堆肥でも十分発酵したものを使用して下さい。

堆肥は肥料による作物への障害を回避するために一般的には播種、植え付け7日~10前に施用して耕うんします。

(参考資料 神奈川県作物別肥料施用基準 神奈川県環境保全型農業の手引き)